

## ① エネルギー源毎のトレードオフ

東京電力福島第一原子力発電所における事故により、原子力発電が抱えるリスクが顕在化し、原子力の安全性に対する国民の信頼が大きく損なわれた。これを受け、原子力の安全確保体制を抜本的に見直すとともに、原子力発電への依存度をできる限り低減させることが求められている。ただし、その際には、各エネルギー源に関する議論で明らかになったとおり、全てのエネルギー源には長所と短所があり、「完璧なエネルギー」は存在しないことに留意する必要がある。

例えば、再生可能エネルギーは、「純国産エネルギー」で、発電時にCO<sub>2</sub>を排出しないといった特性がある一方で、現状では相対的にコストが高く、立地・系統上の制約も小さくない。太陽光発電や風力発電は、今後の導入に期待すべきであるが、出力が不安定であるという課題もある。火力発電は、出力が安定し、コストも比較的安価であるといった長所があるものの、その燃料のほぼ全てを海外からの輸入に依存し、化石燃料を燃焼させる際にCO<sub>2</sub>を排出するという課題がある。

エネルギーミックスを考える際には、以上のようにある要素（例えばコスト）を重視すれば、他の要素（例えばCO<sub>2</sub>）が犠牲になるというトレードオフの関係が存在する。エネルギーの選択は、いずれにせよ厳しいものにならざるを得ない。一長一短のあるエネルギー源をいかに組み合わせ、バランスを確保するかが、エネルギーミックスの選択における重要な視点である。